

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立成章中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

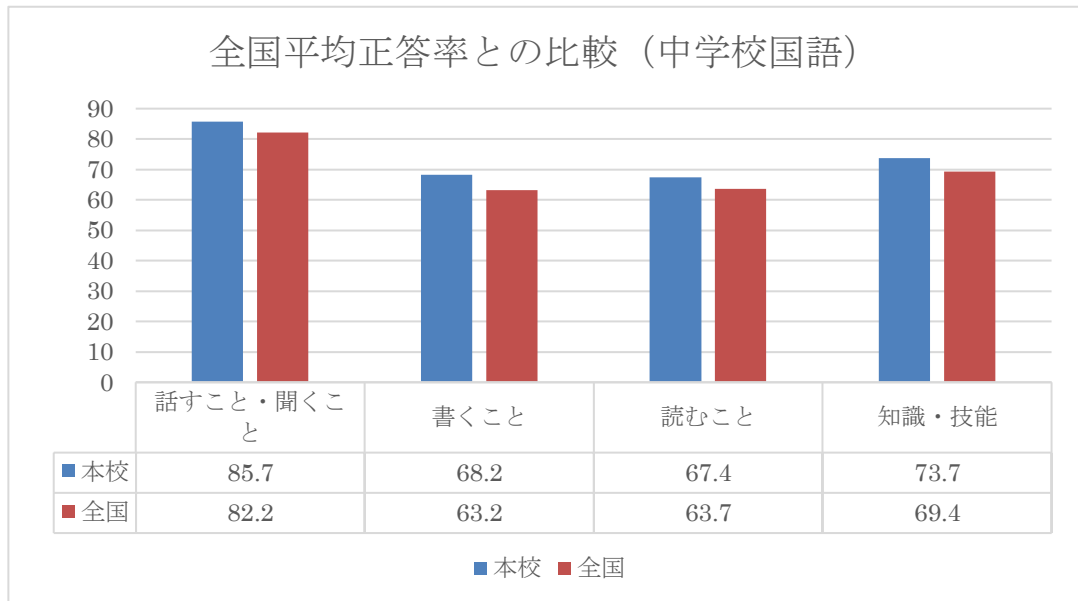
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語（中学校）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

やや全国平均を上回る結果でした。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「知識・技能」の全てで、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が4.3ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習に取り組んだ成果が表れていると考えられます。しかしながら、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題では全国正答率を下回りました。

課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率72.0%は、全国平均正答率68.0%を上回っているものの、苦手になっている生徒が多くなります。生徒の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

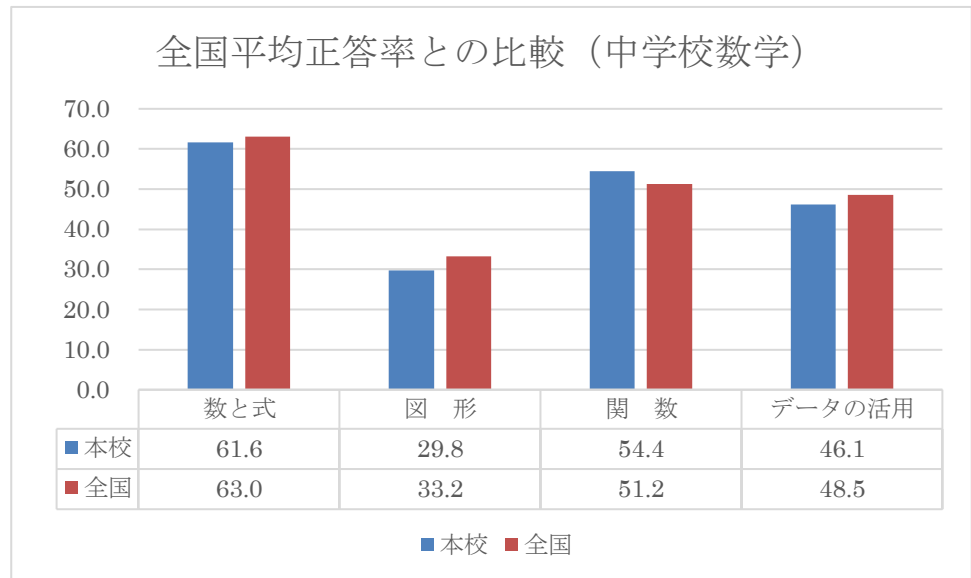
【学校では】

- 生徒が主体的に学べるように、授業の場面でインタビューをする、レポートを書く、目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかくなど言語活動の場面を設定するなど、これまで以上に授業の在り方を工夫することで、生徒同士が関わり合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導していきます。

【ご家庭では】

- 文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。朝のニュースや出来事などについて、定期的に話をしてみてください。
- 語彙力が高くなると国語の力も高くなるといわれます。文学・科学・歴史・地理・芸術…様々なジャンルの本を読み、いろいろな表現や用語に触れることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数(数学)



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「関数」の領域で全国平均をやや上回りましたが、「数と式」「図形」「データの活用」の領域で全国平均をやや下回っています。

また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均と同様の結果となっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 関数」の領域の、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回っていました。

しかしながら、「A 数と式」の領域の、自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題や数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を下回っていました。基本的な知識や計算力は数学を学ぶ上で必要な力です。また、「D データの活用」の領域で学ぶ内容は、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて解決したり意思決定したりすることが求められる現代では大切なものです。

今後、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることと並行して基本的な事項を確認していくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

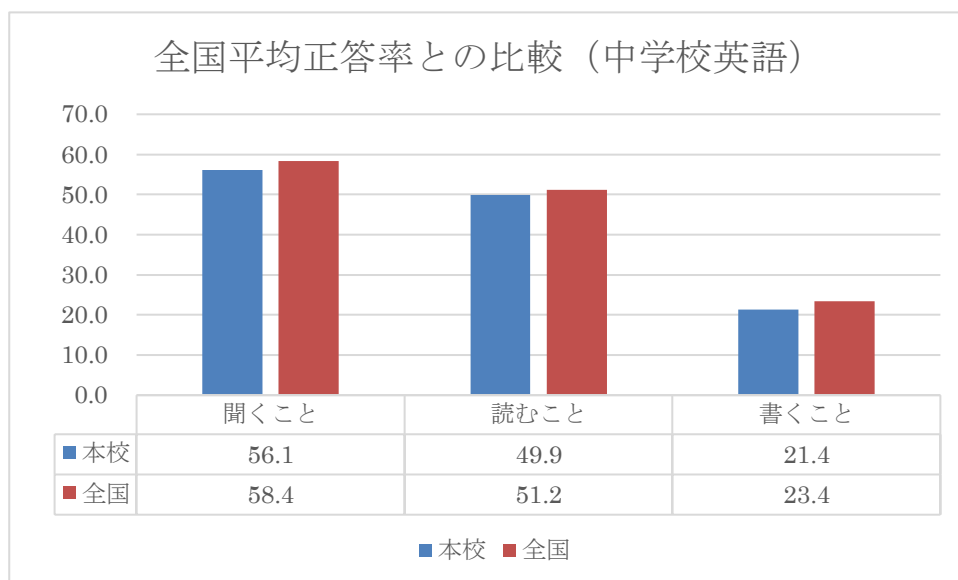
【学校では】

- 答えを出すだけでなく、答えを求める過程を考えさせたり、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を関連付けさせるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノート（ワークシート）チェック、確認テスト、家庭での課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子様の学習の様子やテストをご覧になり、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学が好きになるきっかけは、問題を解くことができた喜びの経験も1つの要因といわれています。「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。「コンピュータや時計（○進数）」「用紙の縦横比」「投げ上げたボールの描く軌跡」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには数学を使えるものが意外とあります。

3 英語



(1) 結果

全ての領域で全国平均をやや下回っています。

「聞くこと」、「読むこと」に比べ、「書くこと」の対全国比が低くなっています。

また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均を下回っています。特に「話すこと」の領域の問題では大きく下回る結果となっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「書くこと」の領域の「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を 4.6 ポイント上回っていました。また、「聞くこと」の領域の情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均正答率を 4.0 ポイント上回っていました。一方で、日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる問題や文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題は、課題が見られました。

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るためには、話されること全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 学習者用デジタル教科書などを活用しながら、何を聞き取るか理解した上で、それらに関連する語句や表現に着目して必要な情報を正確に聞き取ることができるようにします。
- 説明文を読む際には、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることができるよう指導を行います。
- 読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが英語力の向上につながります。映画を観るときに英語音声や字幕を表示したり、好きな英語の曲を覚えたりすることもよいかもしれません。また、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 英語学習のテレビ・ラジオ放送や英語学習用教材サイト等をご活用ください（文部科学省のホームページでもたくさん紹介されています）。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※ 「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	83.8%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	39.6%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	58.4%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	24.0%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	39.6%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	79.2%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	86.4%	80.3%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。今後も家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

自己肯定感や規範意識の項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも低い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	13.0%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	4.5%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	19.5%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	29.9%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	24.0%	18.0%
「30分より少ない」	12.3%	9.9%
「全くしない」	9.7%	6.0%

家庭学習については全国平均をやや下回っています。1時間未満の生徒が4割以上おり、全く家庭学習をしていない生徒も1割程もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)についても学年の状況に応じて取り組みを行い、定着しつつあります。
- 計画的にキャリア教育に取り組むことで学習の必要性を知らせるとともに、テスト前にはテストガイダンスを示し学習に計画的に取り組めるようにします。

【ご家庭では】

- 学習習慣の定着には、学習しやすい環境を整えることが大切です。勉強に関するちょっとしたことを褒めたり、集中力を奪わないように気を付けたりすることで違いがあるといわれています。
- 学習の状況を確認することも大切ですが、学習した内容を教えてもらう声掛けができれば、学んだ内容を整理しアウトプットすることで学習の定着を図ることができるといわれています。